

武蔵野公会堂改修等工事設計業務公募型プロポーザル 審査講評

令和5年12月

武蔵野公会堂改修等工事設計事業者選定委員会

はじめに

武蔵野公会堂改修等事業は、改修等（一部減築や増改築も含む改修）により、市民の芸術文化活動を支える機能を高め、より安全で誰もが利用できる施設として、武蔵野公会堂を再整備するものである。施設の健全度や経済性のほか、吉祥寺駅南口パークエリアの将来像の検討が行われている現状等を総合的に勘案し、延命化の視点から築 80 年程度の活用を目指すこととしている。

今回の設計者プロポーザルでは、新規の建築とは異なり制約条件が多いことに加え、市民の創造の場としての機能を高めた新たな武蔵野公会堂の姿を問うものであり、豊富な知識と経験、技術力や発想力等を持つ高度な設計能力を備えた設計者の選定が求められた。そのため、プロポーザルの形式は幅広く設計者を募集する公募型とし、施設への関心を高め、選考の透明性を確保するために設計候補者のヒアリングを公開で実施することとした。

プロポーザルの審査は、建築や都市計画、芸術文化に関する有識者と行政関係者とで組織する選定委員会により行い、厳正かつ慎重な議論を重ね、武蔵野公会堂改修等基本計画のコンセプト等を具現化できる最適な設計者を選定すべく尽力した。

このたび、委員会における審査を終え、最優秀提案者を選定したので、その結果を審査講評として取りまとめたものである。

#### 武蔵野公会堂改修等工事設計事業者選定委員会

委員長 倉田 直道（工学院大学名誉教授）

副委員長 吉川 徹（東京都立大学教授）

勝又 英明（東京都市大学名誉教授）

倉方 俊輔（大阪公立大学教授）

小林 真理（東京大学大学院教授）

毛利 悦子（武蔵野市市民部市民活動担当部長）

吉本 光宏（合同会社文化commons研究所代表）

## 1 選定結果

- ・最優秀提案者 株式会社小堀哲夫建築設計事務所
- ・次点者 株式会社A S

## 2 選定経過

### (1)第1回委員会

令和5年7月14日(金)に第1回選定委員会を開催し、プロポーザルの実施要領、審査基準、スケジュール等について確認し、必要な修正を行った。

### (2)応募状況

令和5年7月28日(金)に公募を開始し、8月28日(月)から9月1日(金)にかけて参加表明書を受け付けた。31者の参加表明があり、事務局にて提出書類を確認した結果、すべての事業者が参加資格を満たしていることが認められた。

令和5年9月19日(火)から29日(金)にかけて提案書の受付を行い、30者から提案書(技術提案書及び価格提案書)が提出された。

### (3)第2回委員会(第1次審査)

令和5年10月20日(金)に第2回選定委員会を開催し、プロポーザル実施要領等に沿って審査を実施した。

- ・事前審査における各委員の採点を確認し、評価の分かれている提案者について議論を行った。
- ・各委員が15票の投票を行い、委員の過半数である4票以上を獲得した16者を次の段階に進めた。
- ・各委員から審査の視点と高く評価する提案者について説明がなされ、議論が行われた。
- ・16者に対して各委員が5票の投票を行った結果、委員の過半数である4票以上を獲得した者は6者であった。この6者について、得点(実績に関する評価及び技術提案書に関する評価の7名の委員の合計点)の上位6者と一致することを確認し、第1次審査の通過者として決定した。
- ・第2次審査におけるプレゼンテーションの順番は、委員長のくじ引きにより以下のとおり決定した。

#### 【第1次審査通過者】

株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ

株式会社小堀哲夫建築設計事務所

株式会社スターパイロット

株式会社日建設計

株式会社A S

株式会社青木茂建築工房

#### (4) 第3回委員会（第2次審査）

令和5年11月1日（水）に武蔵野公会堂ホールにおいて、第1次審査を通過した6者のプレゼンテーション及びヒアリングを公開で行った。プレゼンテーション及びヒアリングの後に非公開で最終審査を行い、各委員の意見を共有した後、各委員による6者の評価（実績に関する評価、技術提案書に関する評価、ヒアリングに関する評価及び価格提案に関する評価）が提出された。各委員による評価の合計得点を算出した結果、以下のとおり、最優秀提案者と次点者を選定した。

- ・最優秀提案者 1,188.25点 株式会社小堀哲夫建築設計事務所
- ・次点者 1,170.50点 株式会社A S
- ・第3位 1,097.75点
- ・第4位 1,073.00点
- ・第5位 1,062.50点
- ・第6位 1,051.25点

### 3 審査の講評

#### (1) 最優秀提案者について

まちを訪れる人たち、施設を利用する人たちの立場に立ち、公会堂を多様な世代が憩える居場所にすることをコンセプトとした提案である。会議室棟は既存の建築を活用しつつ「ゲートとしての建築」として開放感ある設えとし、新しさと懐かしさを共存させながら、新たな価値を創造することを目指している。ホールを取り囲むように「3つの居場所」が配置され、大勢でも一人でも憩い、活動できる居場所を提供しようとしており、ホール利用者だけでなく、誰にとっても心地よい空間が生まれることが期待できる。

また、武蔵野市の他の文化施設の利用状況を丹念に考察し、地域の土地柄についても歴史を遡り研究しており、施設周辺への細やかな配慮もうかがえ、諸室の配置やまちとのつながり等、調査・分析の結果を踏まえた提案内容が高く評価された。ホールや設備等の改善案も具体的で実現性が高いと考えられ、全体として非常にバランスの良い提案であると言える。

プレゼンテーションにおいては、本事業に対する強い熱意・意欲とともに、分析力や説明力の高さが示され、モダニズムの継承の考え方など、ヒアリングに対する回答も明確で論理的であった。

これらの点を踏まえ、総合的に評価を行った結果、本事業に求められる高い設計能力を有する最も優れた提案者として選定した。

#### (2) 次点者について

新たな公会堂が居心地の良い場であるだけでなく、活動が共有・発信され、誰かと何かを始める・つながる場「4thプレイス」となり、将来の吉祥寺のまちづくりを考える拠点としていくことをコンセプトとした提案であった。既存の会議室棟を刷新し、変化に富む空間構成を取り入れ、新旧が融合した新しい風景を生み出そうとしており、また公会堂に限らず武蔵野市の他の公共施設や市民活動等に対する理解が深く、文化活動を

サポートする創造的機能に関する具体的な提案など、独創性や発想力が高く評価された。ホールや設備、コスト等に関する提案も的確であり、バランスの良さも優れていると評価された。ただ提案の実現のためには優れた運営を伴う必要があるという点で、やや不確定要素が多い懸念があるとの意見も出された。

### (3) その他の提案者について（第2次審査のプレゼンテーションでの発表順に記載）

#### ①株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ

ホールの保存のために鞘堂形式の新たな屋根を設置し、内部空間に外部的な空間を生み出すという独自性のある提案であった。エネルギー効率への配慮が優れているとの意見があったほか、フレキシブルな空間利用の考え方についても評価された。一方で屋根の新設に関しては、20年程度の活用が想定されている中で、その手法の妥当性について懸念する意見も出された。

#### ②株式会社スターパイロッツ

多様な市民の日常に目を向け、吉祥寺のまちの特色を理解し、公会堂を「インクルーシブな日常の居場所」とする提案である。これからの公共施設のあり方など設計者の理念を随所に盛り込んだ案であった。設計のプロセスを重視し、そのプロセス自体をまちづくりと捉え、提案には実際に地域の人々から聞き取った意見を反映させており、公会堂を機能的にまちに開き、市民に広く愛される施設にしていこうという姿勢が評価された。一方で、設備やコスト等に関するもう一步踏み込んだ分析や、他の事例にはない公会堂特有の提案に言及して欲しかったとの意見もあった。

#### ③株式会社日建設計

既存建築を継承して増築をほぼ1階部のみに集約しながら、バリアフリー化やホール機能の向上、既存以上の諸室スペース確保、まちとのつながりの充実等を実現する提案である。コストバランスにも配慮がなされ、緻密な分析によって練り上げられた現実的かつ合理的な優れた案であると評価された。一方で、壁面緑化も含め、独自性や新規性のある提案要素がやや乏しいのではないかという意見が出された。

#### ④株式会社青木茂建築工房

既存建築を最大限に活用しながら、最小限の増築として新たなアプローチを設置し、まちに開かれた施設にするという提案である。明快な手法によるシンプルで無理のない計画であり、非常に効率的でコストバランスにも優れた提案として評価された。一方で、変化や付加価値という点では少しインパクトが弱いのではないかという意見も出された。

### (4) 総評

今回の武蔵野公会堂のプロポーザルは、施設を新たに建て直すのではなく、改修を基本として、利便性や安全性のほか、コストや使用期間、まちとのつながりなど、様々な条件を満たしながら、既存施設を今後も活用し続けることを目的とした、設計者選定のプロポーザルであった。減築や増築を含む改修を基本としつつ、その具体的な範

囲や手法は提案に委ねる部分が多いという特徴的な条件であり、設計者の高い力量が問われるものであったが、幸いにもこのプロポーザルの趣旨に賛同し、関心をお持ちいただいた30者から提案を頂くことができた。

提案を概観すると、その視点は、現在の機能を維持向上させた上で建物の長寿命化を目指すもの、現在の機能に市民の新しい居場所づくりという機能の付加を目指すもの、そして現在の機能に市民の新たな文化創造活動の場という新しい価値の付加を目指すものに大きく区分され、提案はそれらの組み合わせとなっている。その上で建築として何を保存し、何処を減築し、何をどのように増築するかという、あたかも複雑な立体パズルを解くような提案となっており、設計者の力量が示されていた。いずれも改修・リノベーションの多様な可能性にチャレンジする内容であり、アイデアの豊かさと提案内容の幅の広さに驚かされ、委員一同大いに感服したところである。

一次審査では、提案者の実績・実施体制と技術提案書に基づき書面審査を行い、総合的な評価により、二次審査に進む6者を選定した。さらに二次審査では、公開でのプレゼンテーション及びヒアリングを実施し、十分な意見交換を行い、厳正に審査を行った。提案のレベルの高さゆえに、いずれも優れた設計者であると認められ、その優劣の評価は容易ではなかった。特に上位2者の評価は拮抗しており、難しい判断が求められたが、各委員の評価を共有したうえで議論を重ね、総合的な評価の結果として最優秀提案者を選定した。

最優秀提案者には、今後武蔵野市とともに検討を重ねながら、時代のニーズに応える新たな価値を備えた武蔵野公会堂の実現に向けて、如何なくその力を発揮されるものと期待する。

そしてプロポーザルの限られた期間の中で、多大な時間と労力を費やし、創意工夫に富む優れた提案をまとめあげていただいた提案者の皆様には、その努力と熱意に対し、ここに深く感謝し、心より敬意を表したい。

近年、公共施設の取り壊しの知らせを耳にする機会が増えている。長く使い続けてきた愛着ある施設が簡単に取り壊されることに心を痛める人も多いであろう。老朽化への対応には一様の解決策はないが、年数を経た公共施設は地域の大切な空間資源であるとともに、そこでの活動や記憶・歴史も貴重な文化的資産である。まちや人々とのつながりに思いを馳せながら、施設を活かしていくことの意義にも目を向けられるとよいと考える。今回のプロポーザルが、武蔵野公会堂に新たな魅力ある公共空間を生み出し、武蔵野市の芸術文化の発展に資するとともに、公共施設の再生・利活用に関する新しい可能性を示すことにつながればと願っている。

武蔵野公会堂改修等工事設計事業者選定委員会 委員長 倉田直道